

## 第一回 北杜市消防団活性化検討委員会会議録

### 1 会議名

第一回 北杜市消防団活性化検討委員会会議録

### 2 開催日時

平成26年12月24日（水）

### 3 開催場所

ふれあい館2階会議室

### 4 出席者

委員

事務局

### 5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 市長あいさつ
- (4) 自己紹介
- (5) 議事
  - ① 委員長・副委員長の選任について
  - ② 北杜市消防団活性化検討委員会について
  - ③ 北杜市消防団について
  - ④ 今後の予定について
  - ⑤ その他

### 6 公開・非公開の別

公開

### 7 非公開の理由（会議を非公開とした場合に限る）

### 8 傍聴人の数（会議を公開とした場合に限る）

なし

### 9 審議内容

#### ・会議次第（3）市長あいさつ

北杜市消防団は、約1,800人の団員が所属する県下最大規模の消防団で、団員は職業に就きながら地域の安全のために活動している。消防団の特長は、なんといっても地域に暮らす人が主体である点にあり、最近は、火災のみならず一番身近な防災組織としても活動  
本市消防団の課題として、団員の確保があげられる。

北杜市は山梨県一番の面積を有しており、人口に対する面積が他の市町村よりも大きいことから、標準的な団体よりも多い一定規模の団員は常に確保しなければならない。

そのためには、非常に広い分野にわたる課題を考える必要がある。それぞれの立場からご意見をいただき、今後10年間あるいはそれ以降も活動ができる体制を視野に入れる必要があると考えている。

- ・会議次第（４） 自己紹介
- ・会議次第（５） 議事

① 委員長・副委員長の選任について

委員長に清水康男氏、副委員長に清水章弘氏が選任された

② 北杜市消防団活性化検討委員会について

資料により委員会の趣旨が説明された。

委員：この委員会で一番大切なことは、消防団のありかたの見直しという点だが、「身近な人々への応急措置」たぶん、町内会レベルで安否確認体制とか応急な対応だとかというところの仕組みをちゃんと作らないと大変なのでそのリーダーを作るとのことだと思う。「顔が見える防災担当者」というのは、身近な方に対して「ここはどうするの」と質問しやすい、あるいは防災の教育を簡単にやっていただけるという方だと思うが、二番目に「大規模災害への対応」というのがどんとあって、これが気になる。常備消防との関係などから、その中で消防団がどんな役割を果たすのかということをしかりと認識しておかないと、消防団員が一番厳しい状況に置かれることになるので全部を背負わせてはいけないと思う。「この範囲内をするんですよ」ということを決めておいてほしいと思うので、もう少し詳細にしておいてほしいと思う。

事務局：正副会長で詰めて、次の委員会に報告ができるようにしたい。

委員：消防がオールマイティーというのはなかなか難しいことで、北杜市の場合には市の主導で自主防災組織を各地域に作れということで私どもも作っている。それと消防団との関係というのを考えるような内容になっていない。そのへんももう少し整理して考えた方がいいと思う。

委員長：実際に水害・地震が起きたときに、地元からいってしまうのかなという懸念も持っている。現実に自主防災組織の責任者や幹部の皆さんは苦慮している部分だと思うので、これについても検討をしてゆきたいと思う。

委員：団員数が減ってきたときに、類似の団体と比較してうちの団員はどうなんだろう、あるいは、団員に報酬を出すときに類似の所ではどのくらいかというようなものを示してもらえれば、判断ができるかと思う。

委員長：今、委員がおっしゃったように国で基準を設けている。「消防力の基準」というようなものがあって、それに基づいて各消防団では類似団体との比較もしていると思う。次回に類似団体の資料を出していただければありがたい。

委員：今の消防団に実際にどれだけのマンパワーというか、災害があった時に平均的に出動できるような体制がとられているのだろうか。実際に災害が起きたとき・火事が起きたときどれだけの人たちが結集して業務に携われるのかというのが疑問に思えて、発言した。

副委員長：建物火災で全員に招集をかけたとして1/3くらいが集まってくれるかと感じている。団員はそれぞれ仕事を持っているので、自由がきくかたと身動きが取れないかたなどそれぞれ、その時にできる範囲でかつ優先的に行動してもらおうという形でやっている。一口にどのくらい集まるかというのは非常に難しい。必ずしも家にいてという形ではなく、自分自身は仕事の関係で他町村にでているけれども、

親がいる地区で消防団員として活動しているという人も実際のところ多数いる。それぞれの立場で何を優先しなければいけないのかというのは、非常に考えてしまうことが多いと思う。

委員長：副委員長から話があったように、消防団員は昼間は多くの人が地域外に出ている、夜間は戻ってきていて夜間はそれなりの充足率というのがあると思う。でも、昼間はどうかかなあとちょっと疑問視する。こういったことを憂う人も多いのかと思う。

委員：消防団の活性化で「どうしましょうか」という話をしているが、範囲が広いので事務局の関係とか現役の消防団のかたがたに、ある程度課題をあげていただきたい。

委員長：課題をいくつかあげてもらい、その中で議論をしていくほうが効率的だと思う。

委員：何かあったときの消防団と常備消防の関わり、どういう分担のなかでどうやっていくかということを考えなくては、消防団だけを考えていたのではうだつが上がない。

委員長：常備消防と団との意見なども入れた中で進めていった方がいいということか？

委員：趣旨をもっと細分化された中で検討していったほうがいいと思う。

委員長：一回目で宿題的なものも多いので次回にまた資料を作るべきものは作って進めたいと思う。

### ③ 北杜市消防団について

資料により消防団の状況が説明された。

委員：女性の消防団員はいないのか。

事務局：いない。

委員長：婦人消防隊が過去あった（須玉とか山高のほう）が、現況は？

事務局：後に続く人がいない等の問題があり、今は活動していない状況。

委員：当時は消防団員だったのか？

事務局：消防団とは組織的には別の団体。

委員：新潟県の見附市は女性の消防団員がすごく多い。消火をするだけでなく、防災教育をやっている。

委員：自衛消防隊を企業で持っているところはありますか。（あります）

自衛消防隊との関わりも含め、ここの地域と消防を考えてゆきたいと思う。

委員長：女性の力、を借りて防災・減災につなげていくということと、ある程度の企業になると自衛消防隊を法的にも置かなければならない、そういった企業との連携、常備消防との連携などを模索していくことがよいというような提言をいただいた。

委員：北杜市消防団協力事業所が3社あるが、どういう企業なのか。

事務局：消防団協力事業所は消防団に協力する事業所という意味で、消防団に理解がある事業所。従業員が消防団になりやすい環境を作りますよという約束をしてが、火災の時に団員として社員が出動するということは別。

委員：家屋の火災ばかりではなくて山林の火災はこわい。北杜市と隣接しているところの消防の協定みたいなものはあるのか？（協定の状況を説明）

委員長：最初の委員会なので、何を目的としているのかということだが、要綱第2条で市長に提言する内容を定めている。

この機会に北杜市の防災・減災について広く考える時間があってもいい、個人的に勉強してもよいというとりえ方の中で、いろいろなご意見をいただきたい。

#### ④今後の予定について

委員長：将来の消防団のありかたについて検討を進めてゆくわけだが、進め方についてご意見をうかがいたい。

委員：まわりの環境をいかにして整備するかということがある。地域の自主防災組織と消防団、市と消防団、それぞれの組織の方がどういう役割で消防と接しているんだということが理解されるようになっていったほうがいい。

委員：先ほどから話をしている中で課題がいくつか見えてきているわけだから、それを提示してもらい、それについてみんなで話し合えばいい。

委員長：課題をまとめて次にいかしていけばという意見だが？

事務局：話の中でいただいた意見をまとめて提示する。

委員長：共通認識としておいたほうがよいものがないかありますか？

委員：地域の各種の立場の人が大災害が起きた時にうまく機能するようなことで地域防災計画ができていて、その中で消防はどこからどこまでやるんだということ、そうした結果今の組織が定員に達しているのかいないのかを議論しないと、そのあたりの整理をもう少ししてもらって提示してもらわないとちょっとものが言えないかなという感じがします。

委員長：なければ、今日いただいた意見を元にして検討内容をまとめ、次回の会議に提示します。

## 消防団員周知施策の強化

- ・ 消防団への理解を深める広報施策
  - 住民の消防団に対する理解を向上させる広報活動
  - 各種広報媒体を活用した消防団活動の紹介
- ・ 対象を絞った周知活動
  - 事業所への周知活動
  - 女性を対象とした募集活動
- ・ 消防団情報の提供と共有化
  - 若年層・サラリーマン等を対象にした研修・交流会
- ・ 自主防災組織・ボランティア団体等との連携方策
  - 自主防災組織との連携と役割分担
  - 自主防災組織等の指導者としての位置付け

## 消防団員支援施策の推進

- ・ 消防団員の活動環境の改善
  - 消防団活動の見直し
  - 若年層・女性の意見の反映
- ・ 活動能力の向上に資する平常時の支援方策
  - 入団に伴うメリットづくり
  - 団員特有のメリットづくり
- ・ 消防団員の処遇等の改善

## 次世代の消防団員育成

- ・ 中学生・高校生への周知活動
  - 防災訓練等での消防団員による指導
  - 消防団への体験入団
- ・ 小学生への周知活動
  - 学校教育の中での防災教育
  - 子ども会等の活動と連携した周知

## 運営組織の充実強化

- ・ 役割に応じた消防団組織
  - 一定の役割を持つ活動別組織の導入
  - 消防団の中での業務分担制の検討
  - 登録制消防団員の検討
- ・ 勤務地を活動地域とする消防団
  - 勤務地消防団員の確保
  - 民間事業所勤務者等の確保
  - 自衛消防隊との連携方策
  - 機能別消防分団・部の設置

